

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒

高柄山 — 健脚向きの駅前登山 —



高柄山(新大地峠から)

斜の上に滑りやすい泥道。ダブルストックの有難味を実感した。

12時15分、新矢ノ根峠。鉄骨造り・ブリキ壁のアズマ屋がある。ゴルフ場造成業者が罪滅ぼしに作ったものらしいが、急造飯場のトイレのようで、いかにも無粋である。

ここから先は、ゴルフ場造成のため、ゴルフ場の境界に沿って無理矢理に付け替えたルートとのことで、地形に逆らって不自然に付けたルートだけに、

12月中旬、中央線沿線の高柄山（733m）に出かけた。下山後の鶴鉾泉一浴が魅力と聞いての挑戦である。

中央線・四方津駅に下車したのが7時半。川合集落の中の急な舗装道路をボツボツと登る。8時10分、千足分岐で舗装が尽き、登山路になる。葉が落ちて明るい雑木林の中、ひたすら急登が続く。路面には時々凍った雪があるが気にする程のこともない。9時50分、新大地峠。目指す高柄山が大きく迫って見えた。

しかしここからが大変。滑り台のような急下降が100m近く。木の枝にすがってやっと降りる。その後、いくつかのピークを越えた後、更に大降だりしてやっと千足峠。その先もすごい急傾斜の登り降りがいくつかあって、クタビレ果てて10時40分、高柄山山頂に到着した。



高柄山山頂

山頂で1時間の大休止。風もなく心地良い日だまりで、目の前

に連なる丹沢の山々や振り返っての高尾・陣馬・奥多摩の山々を眺めながらのんびりと昼食をとった。

下山は新矢ノ根峠経由で上野原駅に下る。山頂からの降りが又、すごい急傾



木の間越しの高尾・陣馬・奥多摩の山々

やたらに上り下りが多い上に、あっち曲がりこっち曲がり、何とクタビレること。最後に、鶴島御前山の肩まで大汗かいて直登させられた後に再度急下降させられ、最終点のゴルフ場から流れ出る汚水の沢に架かった橋を渡り13時40分、やっと林道に出ることが出来た。

林道をテクテク歩いて10分程で待望の鶴鉾泉に着いたが、何と閉まっていた。平日の立ち寄り湯は事前の予約が必要とのこと。残念でした。上野原駅到着は14時20分。



鶴鉾泉